

宮城県林業普及活動情報

2022. 10月号 No. 173

もくじ

各地の林業普及活動情報	P 2 ~ 8
○スマート林業普及に向けた取組	(大河原地方振興事務所)
○移動式チップパーによる山土場チップ生産の実証実験	(大河原地方振興事務所)
○木製サイクルスタンドの贈呈式	(大河原地方振興事務所)
○森林マネジメント力強化支援(森林施業プランナー実践)継続懇談会	(大河原地方振興事務所)
○令和4年度仙南地域スマート林業意見交換会開催	(大河原地方振興事務所)
○原木しいたけ出荷制限解除に向けた支援	(大河原地方振興事務所)
○集積計画に基づく発注業務への支援	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○苗畑実態調査(秋季)	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○令和5年度成長産業化促進事業導入における「プレ・ヒアリング」の実施	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○苔栽培技術講習会の開催	(北部地方振興事務所 栗原地域事務所)
○町との協定による里山管理の支援	(東部地方振興事務所)
○森林整備計画の変更作業	(東部地方振興事務所)
○林業PR動画の取材協力	(東部地方振興事務所)
○林業体験学習(植林体験)	(東部地方振興事務所 登米地域事務所)
○再造林地におけるUAVを活用した測量支援等の実施	(気仙沼地方振興事務所)
○市立松岩小学校の植林体験を支援	(気仙沼地方振興事務所)
○令和4年度林業新規就業者育成研修	(林業技術総合センター)

スマート林業普及に向けた取組

大河原地方振興事務所

【3日(月), 6日(木), 12日(水), 24日(月)】

管内の市町及び林業事業体に対し、当所に配備されている写真測量用ドローンを用いて、写真測量飛行の実演及び活用について説明を行いました。

写真測量用ドローンを実演しながら説明を行ったことで、具体的な活用方法や有用性について理解を得ることができました。

今後も、情報提供等を行うとともに、仙南地域のスマート林業の推進に向けた支援を行っていきます。



【写真測量用ドローンを実演】

移動式チップパーによる山土場チップ生産の実証実験

大河原地方振興事務所

【4日(火)】

七ヶ宿町が導入し、七ヶ宿バイオマスチップ株式会社が指定管理を行っている移動式チップパーを山土場に配置し、従来のヤード集約型生産と作業効率や収益性等の比較検討を行いました。

参加者から「条件の良い山土場であれば効率がよい」や「移動式チップパーが走行出来る林内道路に限られる」「チップ生産を考慮した、はい積みが必要」「運送会社との調整が必要」等の意見や感想がありました。



【移動式チップパーの山土場チップ生産】

木製サイクルスタンドの贈呈式

大河原地方振興事務所

【7日(金)】

「阿武急サイクルトレイン」利用者からサイクルスタンドの設置要望があったことから、「みやぎの木づかい運動」の一環として木材利用をPRするため、宮城南部流域森林・林業活性化センター仙南支部と調整を図り、同支部長から阿武隈急行株式会社に木製サイクルスタンド8基を寄贈することになり、丸森駅前で贈呈式が行われました。木製サイクルスタンドは、今後、主要な駅に設置されるとのことです。

阿武隈急行沿線はスポーツサイクル愛好者に人気のスポットとなっていることから、今後も関係機関と連携を図りながら、「阿武急サイクルトレイン」利用者等へ木材の魅力をPRしていきます。



【寄贈式の様子】

森林マネジメント力強化支援(森林施業プランナー実践)継続懇談会

大河原地方振興事務所

【20日(木)】

第2回目の森林組合との懇談会に参加し前回内容の進捗状況や今後取り組みを確認しました。

組合が抱えている課題等は今回の懇談会を通じて、新たな情報を得るとともに課題解決に向けての取り組みを継続する意思が確認できました。



【懇談会の様子】

令和4年度仙南地域スマート林業意見交換会開催

大河原地方振興事務所

【25日(火)】

管内のスマート林業の推進を図るため、管内の市町及び林業事業体を参集した、「令和4年度仙南地域スマート林業意見交換会」を開催し、スマート林業に関する解説や使用されている技術の簡単な解説を行うとともに、意見交換を行い、スマート林業について理解を深めていただくことができました。

今後も、関係機関と連携し、仙南地域のスマート林業の推進に向けた取り組みを行っていきます。



【現場での聞き取り・指導・助言の様子】

原木しいたけ出荷制限解除に向けた支援

大河原地方振興事務所

【31日(月)】

新たなロットの出荷制限解除を希望する原木しいたけ生産者に対し、現在の取り組み状況や、生産管理等について意見交換を行い、個別の状況を把握することができました。

引き続き、その他の解除を希望する生産者と併せて、関係機関と調整しながら、適時適切な出荷制限解除に向けた支援を行っていきます。



【現地活動の様子】

集積計画に基づく発注業務への支援

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【17日(月), 18日(火), 25日(火)】

栗原市では、森林経営管理制度に基づく経営管理権集積計画の公告を経て、保育間伐を実施することとなり、事業発注に向けたプロット調査を実施し、森林整備事業における積算手法により設計金額が算出されました。

一方、本年度の事業対象林分は300林班を超えており全箇所のプロット調査は現実的でないことから、労力軽減を目的として、森林育成事業の齢級を細分化したオリジナルの単価表を作成し、その活用を提案しました。

今後本格化する集積計画の発注業務において、積算精度や効率性を総合的に考慮した最適な積算方法の選択が課題として確認されることとなりました。

作業種別	間伐率	作業区分	林分ごとの単価(円/㎡)							
			～25年生	～35年生	～40年生	～45年生	～50年生	～55年生	～60年生	伐り残し
作業区分別 間伐率 30% 以上	～25% 未満	総	381,252	346,679	316,404	288,288	268,129	253,791	239,183	217,915
		中	491,990	365,797	351,627	320,320	297,922	281,963	254,647	242,128
		細	441,656	423,717	386,700	362,562	327,714	310,189	290,115	266,941
作業区分別 間伐率 30% 以下	～25% 未満	総	467,387	454,415	419,775	386,894	363,681	347,480	316,843	302,859
		中	519,319	504,900	466,417	429,883	404,030	386,080	352,159	336,610
		細	571,253	555,330	513,058	472,871	444,439	424,688	387,374	370,181
除伐	～25年生以下	総	203,364							
		中	225,000							
		細	248,556							

【齢級ごとに、間伐率、難易度を考慮したオリジナルの単価表を提案】

苗畑実態調査 (秋季)

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【17日(月), 27日(木), 28日(金)】

今年度の秋期実態調査で17日に、コンクール出展用の苗木選別、残り2日間は管内3事業体での生育状況を確認しました。

栗駒高原森林組合では、年間10万本の苗木を生産しており3年生苗木を山行き苗として出荷しています。

一部の苗を抽出し、根が詰まっているなど概ね良好でしたが、根腐れも見受けられました。

苗畑により状況は異なりますが、排水、種蒔き、霜管理、病虫害、冬の床管理と気象状況に気を遣うよう指導しました。



【欠損及び枯れ本数の確認】

令和5年度成長産業化促進事業導入における「プレ・ヒアリング」の実施

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【21日(金), 24日(月), 25日(火), 26日(水)】

令和5年度林業・木材産業成長産業化促進対策交付金事業を要望する5事業体に対し、事前点検シート・得点計算シート等を用い採択要件の他、事業内容、導入機種、費用対効果算出方法等の事前確認(プレ・ヒアリング)を実施しました。

その結果、要望内容(高性能林業機械導入4件、木材加工流通施設等の整備2件)が事



【プレヒアリングにより事業内容を確認】

業目的(経営・管理の集積・集約化による生産・加工・流通コストの一体的な削減)に合致していることが確認できました。

特に高性能林業機械の導入は、生産性向上・低コスト化促進に加え、労働災害防止・作業従事者の労働環境の大幅改善等に寄与することでスマート林業の確立に必須要件となることから、事業採択に向けた更なる支援を行っていきます。

苔栽培技術講習会の開催

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【21日(金)】

苔の地場産品化を推進するため、技術検討会を通して苔生産者等の技術向上と販路拡大を目指すことを目的として、講師に日本苔技術協会の北川義一氏を招き、講習会を開催しました。

当日は、苔栽培地の育成指導、苔見本園のメンテナンス、講義や意見交換と盛りだくさんに実施しました。講師先生からは学名を付けて売るとよいといったアドバイスもあり、参加者からの熱心な質疑、意見も飛び交い、苔の専門家を招いての講習会は栽培者同士の交流も兼ね、大変勉強となるよい機会となりました。



【苔見本園でのメンテナンス講習】

町との協定による里山管理の支援

東部地方振興事務所

【18日(火)】

女川町と仙台市内の企業との管理協定により、社会貢献と震災復興を目的とした町有林での活動を支援しました。活動は社員が過去の植樹箇所での刈払い行いましたが、植栽木へのシカの被害が激しいことから、今後の活動に向けた柵の再設置や植え直しを検討していただくことになりました。



【協定地での刈払作業】

森林整備計画の変更作業

東部地方振興事務所

【24日(月)】

石巻市森林整備計画において、施業の制約がある森林について、今後の適切な施業を推進するため、変更要望があった箇所を現地を踏査しました。

現地3地区は「長伐期施業を推進すべき森林」として、通常の2倍の長さの伐期が定められていますが、いずれも長年手入れがされていない人工林で、所有者も速やかな伐採を望んでいるところです。踏査の結果、周辺地形が安定しており、適切な施業を推進する観点から当該箇所を長伐期施業箇所から除外することで、検討を行うことになりました。



【対象地での確認状況】

林業PR動画の取材協力

東部地方振興事務所

【25(火), 26日(水)】

林業等の新規参入者へ向けたPR動画の製作(発注者: 県)のため、管内で林業技術講習などを開催している林業家への取材撮影に立会いました。

現地(牡鹿地区)では林業家が森林を借受け、間伐やチェーンソー体験活動の様子を製作会社が撮影しました。また、別箇所では林内散策を行い、森とのふれあいの楽しさなどのインタビューもあり、「森林での活動」に感心がある幅広い方たちの参考になるような映像素材となりました。動画は今後、県等のPR資料やイベントの場で活用される予定です。



【森林散策での取材状況】

林業体験学習(植林体験)

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【21日(金)】

津山町林業研究会が主催する体験学習(植林体験)に協力し、来年度から統合が決定している横山小学校と柳津小学校の5年生を対象に、森林組合職員とともに苗木の植栽作業についてサポートしました。各児童は10本植栽することを目標にお互い協力しながら作業を行い、合計150本の苗木を無事に植栽することができました。

また、使用した少花粉スギコンテナ苗の特徴等について、少花粉(普通苗の1%以下)、コンテナ苗(植栽時期を選ばない)、特定母



【苗木の説明に耳を傾ける小学生】

樹（成長スピードが普通苗の1.5倍以上）に分けて説明したところ、よく理解してもらうことができました。

再造林地におけるUAVを活用した測量支援等の実施

気仙沼地方振興事務所

【7日(金), 19日(水)】

気仙沼市の本吉町森林組合が担う再造林計画地について、事業の早期着手を支援することを目的に、UAVを活用した区域測量の支援を行いました。

はじめに、約3haの区域をUAVにより測量し、飛行計測中に、モニターを確認しながら除地となる部分や沢部などの把握を行い、データを持ち帰り解析を行いました。

後日、改めて解析結果を森林組合に持参の上、操作実演をしながら概況説明を行ったほか、実際に計測の手法などを体験いただきました。

実際に操作を体感され、操作性や精度の良さについて理解が得られたところですが、管内では測量用UAV及び解析ソフト等の動作環境が未整備の事業体も多いことから、今後、デジタル技術導入による低コスト林業に繋がるよう、引き続き普及支援に取り組んでまいります。



【UAVを操作しつつ現場状況を確認】



【解析データ説明及び操作実演を実施】

市立松岩小学校の植林体験を支援

気仙沼地方振興事務所

【24日(月)】

気仙沼市立松岩小学校では、5年生（児童数61名）の総合学習において「気仙沼の豊かな海と森林環境の関わり」をテーマに学んでおり、その一環として（一社）松岩愛林公益会等の協力を受け、同会の所有山林に早稲谷・菅原苗木店から提供された広葉樹150本（クヌギ・コナラ・エノキ各50本）を植樹しました。

当事務所では、苗木が健全に生育するための方法を実演を交えて説明するとともに、植樹作業の支援を行いました。

児童は植樹前に下流の川を遡上する鮭の観察も行ったようで、山と海のつながりを実感を持って感じていたようです。

また、今回の植樹活動には、気仙沼の豊かな海づくりに向けた新規事業を検討している



【植樹方法の説明】

当所水産漁港部関係者も同行するなど、山・海づくりの新たな取組に発展するよう連携を強化し、取り組んでまいります。

令和4年度林業新規就業者育成研修

林業技術総合センター

【2日(日)】

宮城県林業労働力確保支援センターが、チェーンソー技能の向上を目的に、伐木等特別教育修了者19名の研修生を得て開催した標記研修会の講師役を支援しました。

はじめに、当所研修棟において、関係法令におけるISO5349-1の記述及び読み損なうとチェーンソーを瞬く間に壊してしまう可能性があるチェーンソーマニュアルの記載事項を確認しました。次に、身体バランスを要する準備体操等をし、エンジンを掛けない状態で、ガイドバーを水平に保ち、腰の移動のみを用い、右から切り込む場合と左から切り込む場合、ガイドバーを垂直に保ち、合わせ切りの切り上げ動作練習、加えて、左手で前ハンドルを確保した状態で、左手を用いたチェーンブレイキの掛け外し練習を行いました。最後に、林業機械実習舎において丸太の合わせ切りと水平切りを経験いただいたところ、事前練習の成果が確認できました。

今後も、林業後継者の育成確保活動を支援します。



【練習の様子】